

# the present situation



2013年10月インド政府組織CCRHより、外国人ではじめて、ホメオパシーの功績に対して、IPHMA 由井会長が表彰される。写真はCCRH マンテザンダ教員より表彰状を授けられる由井氏。

## インドにおける ホメオパシーの現状

インドは世界最大のホメオパシー大国です。200近いホメオパシー医科大学があり、5年半の医学部コース（BHMMSと呼ばれる）を修了してホメオパスとなります。インドではホメオパス医師なのです。ホメオパスの数は約30万人、7500か所の政府系クリニック、3077のホメオパシー病院、5000か所以上のホメオパシー薬局があります。まさに桁違い。ヒンズー教寺院でレメディの無償提供が社会福祉の一環として行われていたり、インド人のスピリチュアルな精神性との相性もよく、ホメオパシーは拡大の一途を辿っています。インド主要7都市では人口の48%がホメオパシーを利用しているという調査結果が出ており、今やアールヴエーダを抜きインド伝統医学のトップに位置しています。

## インドより日本へ

# ホメオパシー事情最前線！

## インドにおける ホメオパシーの歴史

インドのホメオパシーの歴史は古い。ホメオパシーの創立者であるハーネマン（1755~1843）存命中の1810年には、ドイツ人宣教師がインドの貧しい病人にレメディを配り、ホメオパシーの有効性と手軽さから、学校教師がその役を引き継ぎ普及しました。19世紀後半には、貴族出身のラジエンダル・ダッタ（1818~1889）が従来型医学が治せなかった著名人の片頭痛や壊疽性潰瘍を治したことで大評判となりました。彼の弟子となるマヘンドラ・サーカー医師は最初ホメオパシーに懐疑的でしたが、ホメオパシーの科学的有効性と治療可能性を検証したところ、従来型医学より優れていることを認めざるを得なく、一転インド医学史上にホメオパシーの地位を築く立役者となりました。そして、最初のホメオパシー医科大学であるカルカッタ・ホメオパシー医科大学が1881年に創設されたのを皮切りに、20世紀初頭までにホメオパシーはインド全土に広がりました。インド独立の父マハトマ・ガンジーのホメオパシーを支持する以下の声明も追い風になったことでしょう。

「ホメオパシーは、経済的かつ非暴力的に患者を治療するための、最も新しく、最も洗練された手法である。わが国の政府は、ホメオパシーの普及を促進し、ホメオパシーを保護すべきである。不屈の精神力をもって医学に臨んだ故ハーネマン博士は、卓越した知力の持ち主であり、人命を救う手だてを心得ていた。彼の技能、そして彼が行った超人的かつ人道的な作業は、わたしは頭が下がる思いだ。彼への追想は、あらためてわれわれの目を開

かせてくれる。あなた方は彼に追いつける意志をおもちだが、敵対者たちは、ホメオパシーの原則の存在やその実践を嫌う。だが現実にはホメオパシーは、ほかのどのような治療法と比べても高い治療率を示しており、紛れもなく安全で、経済的で、最も完成度が高い医学だ。2013年10月、日印ホメオパシー国際カンファレンスが開催され、ホメオパシーの主義・手法を踏襲してお互いを認め合う前進的なものとなり、インドのホメオパシーの歴史に新たな1ページを刻むことになりました。さらに、2015年2月インドと日本のみならず、アジア全体のホメオパシー国際大会がインドにて開催されることが決定しました。このことは、インドはもちろん、日本そして、アジア全体にとっての大きな歴史となることでしょう。

# history



Dr. B.R.Sur ホメオパシー-医学大学病院とホメオパシー研究センターは、ホメオパシー教育と研究において一環と評が高い大学の一つ。Dr. K.R.Chauhan 学長は旧大学生会が CCRH 由井会長と学生の訪問を歓迎。